

## 口は健康のもと Vol.163

### チームで取り組むリハビリテーション

前回までは誤嚥性肺炎予防の大切さ、摂食嚥下障害の健診と精密検査のお話でした。今回は検査後の対応についてご説明します。

口腔ケア・摂食嚥下リハビリテーションは医師・歯科医師・看護師・歯科衛生士・作業療法士など10種以上からなるチームで取り組みます。

精密検査の結果から「普段の飲食物を誤嚥しにくい物に変更」「喉や舌の筋力訓練」「義歯の調整」といった内容をチーム会議で綿密に検討し、どのような対応が適するのかを決定します。必要に応じてご家族や介護職の方も参加し、口の中の清掃や嚥下のリハビリに協力して頂くこともあります。

しかしながら、誤嚥やそれに伴う誤嚥性肺炎を完全に防ぐことは難しいものです。肺炎球菌の予防接種も必要ですが、それ以上に「日常の歯磨き・口の中の清掃」で肺炎の原因となる細菌を減らし、「顔・喉などの筋力訓練」などで誤嚥しにくい環境を整えることが肺炎のリスクを減らすには重要となります。

『今は大丈夫!』と皆さん思われますが、『今』だけではなく『未来』も現在と同じように、形ある美味しい食べものを召し上がるために、耳鼻咽喉科や歯科で健診を受けてみてはいかがでしょうか。



奥羽大学歯学部附属病院

口腔ケア・摂食嚥下リハビリテーション外来

准教授 鈴木 史彦

